

# ～ ICTを活用し、地域観光を牽引可能な人材の育成～

平成27年地域政策研究センター(教員提案型・前期) 採択課題

課題名 : 「観光と情報」地域コア人材育成カリキュラムの開発と試行  
 研究代表者 : ソフトウェア情報学部 教授 阿部昭博  
 研究メンバー : 富澤浩樹(ソフトウェア情報学部)、市川尚(ソフトウェア情報学部)、  
 宮井久男(本学名誉教授)  
 キーワード : 観光復興、ICT利活用、人材育成

## ▼研究の概要(背景・目標)

地域の観光産業は、事業者のみならず多様な関係者の協働で成り立つ裾野の広い産業であるため、他に較べて産業全体でのICTの効果的利活用の遅れ等が指摘されている

本研究では岩手の地域特性を踏まえつつ、情報・データとICTの利活用を基礎として観光事業を牽引可能なコア人材の育成を目指したカリキュラムの開発と試行に取り組む

## ▼研究の内容(方法・経過)

- カリキュラムの設計: 観光マネジメント人材育成講座修了程度の前提知識を有する中核人材を対象としたステップアップ講座(図1)
- カリキュラム教材の開発: 受講者の地理的・時間的制約を考慮し、集合型のグループ演習とPC演習を主体としながら、eラーニングで補完する仕組み
- カリキュラムの試行・検証: 三陸地域の事業者等を対象に開講し、実施可能性等を検証

## ▼研究の成果(結論・考察)

- 宮古短大を会場に、事業者の閑散期(冬季)を活用した3回(全日)の集合型研修(表1)
- 沿岸北部市町村の観光関連12団体(観光協会、事業者、行政、NPO)職員を対象に実施
- 各回の内容に関連性をさらに持たせるなど運営上改善すべき点もあるが、全体的にみて試行の狙いはほぼ達成

## ▼おわりに(まとめ・今後の展開)

- 「情報」視点から地域観光事業を捉え直し、牽引可能な人材の育成を目指したカリキュラムを開発・試行した
- 運営面や教材面の残された課題を改善し、今後は、行政や大学主催の人材育成講座、地域への講師派遣を通じて成果を展開していく予定である
- 本カリキュラムの試行にあたり、ご協力いただいた岩手県観光課、宮古観光文化交流協会に感謝申し上げる

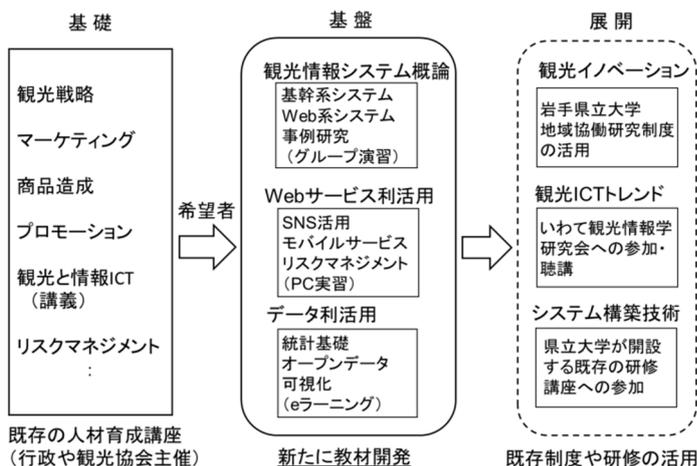


図1: 人材育成カリキュラムのコンセプト

表1: 試行内容

第1回	「三陸観光の現状と将来展望」 三陸観光を取り巻く環境や施策を理解する。RESAS*ビッグデータによる観光実態の把握も試みる。
第2回	「情報視点による観光デザイン」 観光行動を情報面から分析するための枠組みについて理解する。地域内での周遊促進を題材に、新たな観光情報サービスを考える。
第3回	「Webサービスの効果的活用法」 現地モニターツアーや体験アクティビティ等をWebでプロモーションする場合を想定し、SNSの活用を中心とした演習を行う。顧客管理やリスク対応など実際の運用場面に即した内容を取り上げる。
	「eラーニングによる継続的な学び」 継続的な知識習得の方法としてのeラーニング活用法について、データ分析等のスキルアップを例に紹介する。
	「情報交流会」 研修の振り返りや関係者間の交流機会とする。観光ICTの最新動向についても共有し、今後活かす。

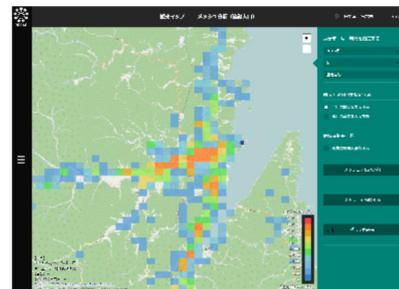


図2: 教材(RESAS)の例\*



図3: ワークショップ風景

\*地域経済分析システムRESASは、内閣府まち・ひと・しごと創生本部が一般公開しているビッグデータ分析ツール